インタビュー

課題抽出から改善提案まで お客様のビジネス展開を セキュリティ環境の最適化を 通じてサポートしていきます

サイバー攻撃の脅威がより身近で深刻な問題になる中で、コンサルティングからSI、各種ツール＆ソリューションによる対策やセキュリティ人材の育成まで、セキュリティビジネスをトータルに展開しているNTTデータグループ。NTTデータグループが取り組むSOCサービスや重点施策、今後のビジネス展開などについて、NTTデータ　基盤システム事業本部　セキュリティビジネス推進室の藤原慎室長と、NTTデータ先端技術　セキュリティ事業部長の年清昭彦執行役員のお二人にお聞きした。

株式会社NTTデータ
基盤システム事業本部
セキュリティビジネス推進室
室長　**藤原　慎**氏

NTTデータ先端技術株式会社
執行役員　セキュリティ事業部長
年清 昭彦氏

セキュリティのコンサルティングから構築、運用・サポートまで網羅的に対応

――はじめに、NTTデータグループのセキュリティビジネスを取り巻く最近の状況についてお聞かせください。

藤原　企業に向けてのサイバー攻撃や金融機関での不正送金など、ここ2、3年の間に大きなセキュリティインシデントが頻発しています。このような状況を背景に、2014年11月にサイバーセキュリティ基本法が成立し、官民ともにセキュリティへの関心が高まっている状況ですが、実際に対処が充分にできているかと言えばまだ道半ばではないかと考えています。

従前からセキュリティ対策を重視されているお客様であっても、どこまで対策を講じれば良いのかはとても悩んでおられます。NTTデータグループでは、このようなお客様のセキュリティに関する課題の洗い出し、改善の提案などのセキュリティコンサルティング、それに基づく具体的なセキュリティ対策の設計・構築を行うセキュリティSI、構築後の運用・監視やインシデント対応サービス、セキュリティ対策がきちんと施されていることを確認するセキュリティ診断まで、お客様に最適な対策・取り組みを網羅的に提供しています。

――サイバー攻撃や情報流出が社会問題化している今日、お客様はどのような課題を抱えていますか。

年清　昨今は、記憶に新しい内部犯行による情報漏洩や、情報システムの脆弱性を狙った標的型のサイバー攻撃が深刻な被害を与えており、対策よりも脅威が先行している状況です。お客様としては、「何の対策を重視して取り組めばいいのか」、「海外では、業界他社では、どのような対策を行っているのか」など、セキュリティ対策全般に関する情報を求めています。限られた予算の中で、多岐にわたる対策に優先順位をつけて対応することや、日々新しくなる脅威に素早く対応することなどが大きな課題になっています。

セキュリティ対策のPDCAサイクルまでをサポート

――課題を抱えているお客様に対して、NTTデータグループでは、どのようなセキュリティビジネスを展開していますか。

藤原　NTTデータでは、セキュリティコンサルティングをさらに強化して、お客様の課題解決のご支援をしながら、それに合わせてセキュリティSI、セキュリティ運用・監視、ソリューション提供していくことを志向しています。この一連の流れの中で、NTTデータ先端技術をはじめとするNTTグ

ループ各社との連携を図り、お客様により良いサービスをご提供していきたいと考えています。また、R&Dとして、セキュリティ、モバイル、ウェアラブル、IoTなどのテーマで、より先駆的な技術の活用とセキュリティの在り方の探求を進めています。加えて、NTTデータグループとしてのセキュリティ対策を指導するチームや、セキュリティ緊急対応チーム（NTTDATA-CERT）とも技術・情報の交流を行ない、高度・複雑な案件への取り組みができるようにしています。

年清　NTTデータ先端技術は、その中の運用・監視サービスの24時間365日のオペレーションや、お客様のセキュリティインシデント発生時に、原因調査や対応策の検討からサービス復旧、再発防止策策定などを支援するIR（インシデントレスポンス）サービス、セキュリティ診断などを提供しています。

藤原　今後のビジネス展開としては、従来のSOC（セキュリティオペレーションセンタ）とNOC（ネットワークオペレーションセンタ）を融合したトータルなセキュリティサービスの提供に注力した取り組みを進めています。NTTデータグループはこれまで多数のお客様に業務アプリケーションを含む様々なシステムやサービスをご提供してきておりますので、そのノウハウを活かしながらよりご満足いただけるサービスの実現を目指していきたいと考えています。

年清　NTTデータの「品川データセンター」にある「ITアウトソーシング・オペレーションセンター」において、実際にSOCとNOCを融合した統合解析によるサービスを行っています。

多層的なセキュリティ対策と優れた人材の確保・育成が急務

――今後の重点施策として、どのような対策があげられますか。

年清　昨今の標的型攻撃などに対しては、ひとつふたつの対策ではすり抜けが起こるため、多層的な防御対策を行うことが重要です。また何かが起こった時に素早く総合的に対処するために、ログなどの証跡を取りアラームを上げ、万一の際には「どのように行動すべきか」というルールの準備・訓練などが不可欠です。サイバー攻撃への対策として、最近は自前のセキュリティチームを持ち、SOCの仕組みを構築して、自社で運用することを目指すお客様も多くなってきています。そのためのセキュリティ運用体制作りのご支援や人材育成協力なども行っています。海外のトレンドをそのまま使うのではなく、自社にとって「何が重要なのか」を踏まえた対策が必要です。

藤原　サイバー攻撃やその被害が世間に認知されるにつれ、セキュリティ人材へのニーズが非常に高くなっています。しかし、優れたセキュリティ人材になるには時間が掛かります。セキュリティエンジニアを擁しているNTTデータグループは、人材とその育成の面でお客様をサポートしていきたいですね。

――最後に、今後のビジネスの抱負をお聞かせください。

藤原　なぜセキュリティ対策が必要なのかをお客様にしっかりとお伝えしていくとともに、お客様がセキュリティ問題に煩わせられないようにすることを目指したビジネス展開をしていきたいと考えています。

年清　日々変わる脅威の状況に対応し、業界動向や個々のお客様の環境に合わせた最適なセキュリティ対策をご提案し、人材提供・人材育成の面も含めて安心していただけるサービスの提供を目指します。

――本日は有り難うございました。

（聞き手・構成：編集長　菊地勝由）

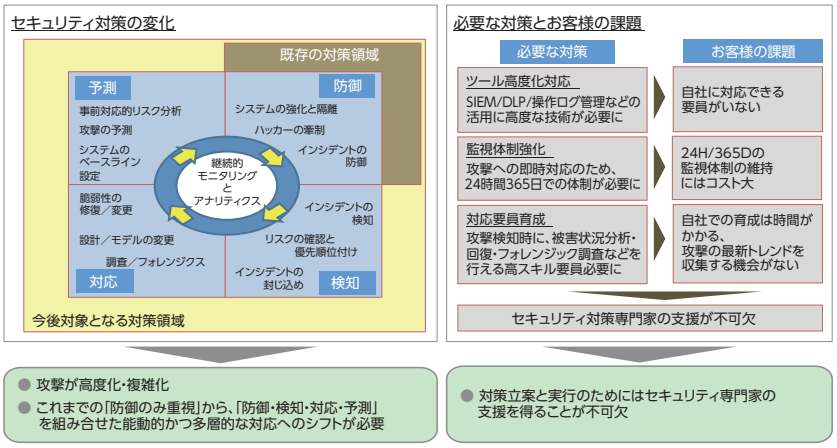

図1　セキュリティ対策の変化、必要な対策とお客様の課題